

- 層からの出土である。建物遺構を検出中に見つかっており、したがって時代的には幅をみて古代末～中世に属すると考えている。
- これらの遺構や遺物から、一般の集落の建物というのではなく、特別な目的で作られた臨時的建物と考えることが適当ではないだろうか。具体的には、土地の神を祭る神社のような建物ではないかと現状では理解している。
- 8 木簡の釈文・内容
- (1) (符籙) 唵々如律令」 (125)×10×6 0.19
- 上半を欠き、裏面には記載がない。上部の符籙については、「天原発微」(「正統道藏」卷八所収)に見える星座「鬼」の図に似ており、その説明として「五星天目也(中略)五穀成」とあることから、五穀豊穡を祈る呪符の可能性がある。
- (瀬戸谷 昭・宮村良雄)



(出 石)

兵庫・宮内黒田遺跡 みやうちくろだ

- 1 所在地 兵庫県出石郡出石町宮内字広田
- 2 調査期間 一九九八年(平10)七月～一〇月
- 3 発掘機関 出石町教育委員会
- 4 調査担当者 小寺 誠
- 5 遺跡の種類 遺物散布地
- 6 遺跡の年代 弥生時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

宮内黒田遺跡は兵庫県北部の出石郡に鎮座する但馬一宮出石神社のすぐ西の位置にあり、弥生時代の遺物散布地として知られていた。

また北約八〇〇mには奈良・平安時代の大量の木製祭祀具の出土で知られる袴狭遺跡群があり、ここからは合わせて五〇点以上の木簡が出土し、出石郡衙遺跡と推定されている。(本誌第一・一三～一七・一九号)

木簡はG区と名付けた南

北五〇m東西一七mの細長い調査区から出土した。層序は上から耕土、床土、暗灰砂（近世）、暗褐色粘土（近世・中世）、そして南半部のみで確認した暗茶褐色粘土層（奈良時代）の順となっており、木製品が多く出土した。特に注意されるような遺構は検出されていない。木簡は三点出土したが、(1)は暗茶褐色粘土層から、(2)(3)は暗褐色粘土層から出土した。またこの他、調査区北端の小さな流路跡から、

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「。□□里□□□鳥戸□□田部□□ 女□可□□□□□□□不□□□□□□□」

・「
。冊代□ 午年分直稻八束度与此矣□得人

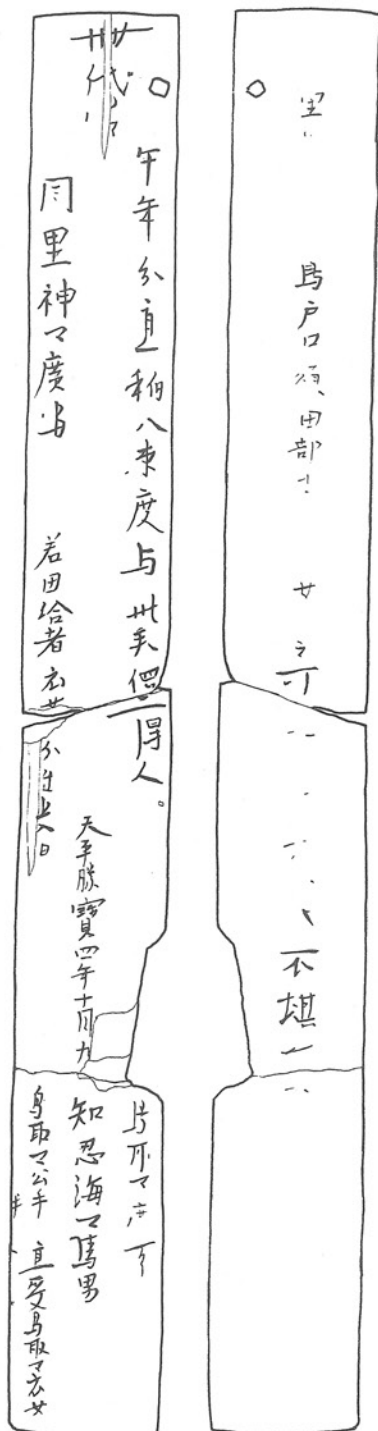
同里神マ廣嶋 若田□者衣女分進上入□

天平勝宝四年十月九日

鳥取マ□廣カ
知忍海マ馬男
鳥取マ公手
直受鳥取マ衣女

474×50×6 011

人形・斎串といった木製祭祀具が出土しているのが注目される。人形は顔を墨書きで表現したものなど一〇点が出土した。平安時代初頭ごろのものと思われるが、袴狭遺跡群と同時期の祭祀具が出石神社周辺にも広がって出土した点は、木簡の性格を考えるうえで注意する必要がある。



(1)

- (2)  (207) × 26 × 3 059
- (3)  (178) × (67) × 5 061

(1)は全長四七cmの大きなもので、左上に穿孔がみられる。左下一部が破損しており、また右辺は二次的に削られている。両面に文字が記されており、裏面の文意から、耕作にかかる土地の貸し借りにかかるものと思われるが、その意味は判然としない。しかし耕地が国の管理下にあった当時、この契約には末端の行政機関が関わったことが想像され、地方での行政のありようを知る資料として注目したい。

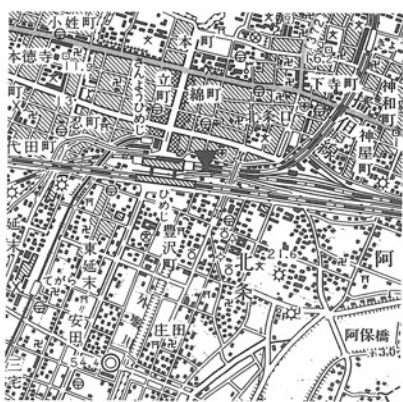
(2)は判読できない。(3)は曲物底板に書かれていたもので、花押のようなものか。

なお釈読にあたり奈良国立文化財研究所の方々のご教示を得た。

(小寺 誠)

兵庫・姫路駅周辺第四地点遺跡(仮称)

- 1 所在地 兵庫県姫路市朝日町・駅前町
- 2 調査期間 一九九八年(平10)八月～一九九九年三月
- 3 発掘機関 姫路市教育委員会
- 4 調査担当者 中川 猛
- 5 遺跡の種類 集落跡(平安時代後半)、城下町跡(江戸時代)、姫路駅舎跡(近代)
- 6 遺跡の年代 弥生時代前期前半～平安時代後半、江戸時代、近代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(姫路)

姫路駅周辺第四地点遺跡は、ほぼ姫路市の中心に位置し、JR姫路駅構内に所在する。遺跡は各時代にわたる複合遺跡である。遺跡周辺には市之郷遺跡、千代田遺跡、市之郷廃寺、播磨国府推定地である本町遺跡、姫路城跡などがある。調査